

FPTが選ばれる理由



経験豊富な人材
メインフレームの開発・保守経験有する
人材1,500名以上



大型案件対応
500人月を超える案件の対応経験を
複数持ち、大型案件への対応が可能



グローバル展開経験
世界中のお客様へマイグレーション
サービスを提供している経験



自社開発ツール
アセスメントやマイグレーション工程に
活用可能な自社開発ツール

事例

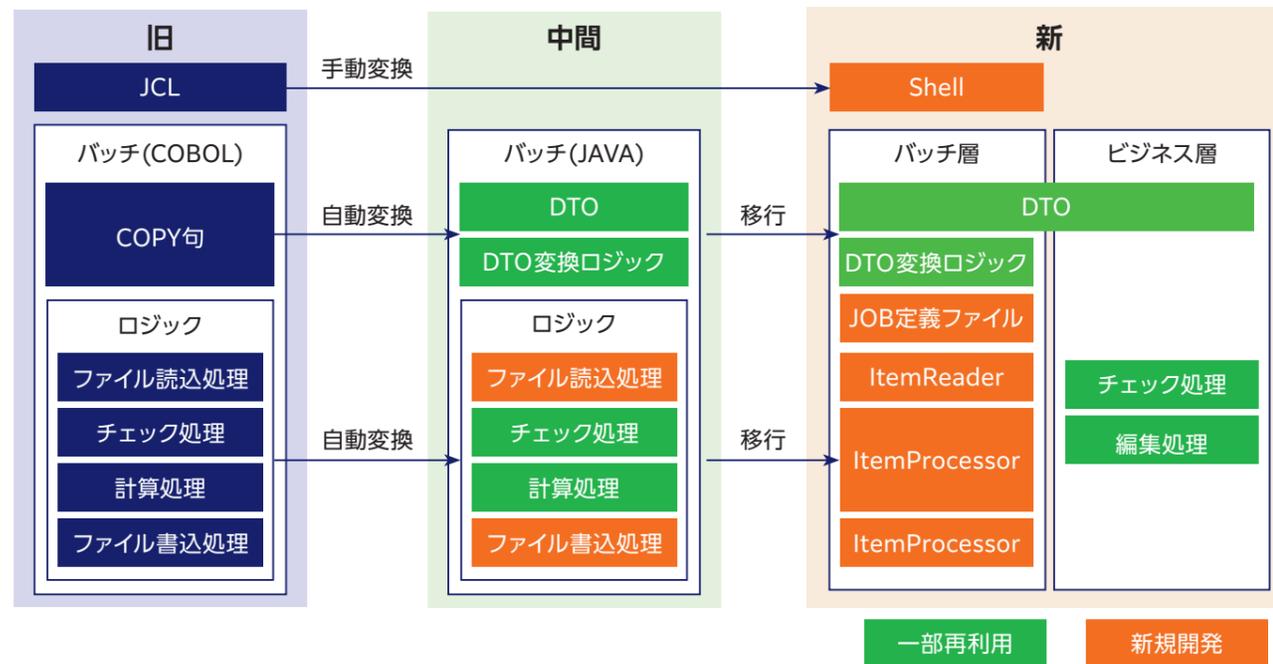
鉄鋼業の大手日本企業向け COBOL85 (バッチ) からJava (JEE7) へのリビルド

お客様のニーズ

鉄鋼工場の生産管理システムは富士通のメインフレーム端末上で稼働していた。拡張性・保守性向上のためにこのシステムをオープンシステムへ移行したい。

- 期間: 3.5ヶ月
- 規模: 140Kstep、90人月
- 使用技術:
 - JEE7
 - Web Server : RAD_WS_9.6

ソースコードを自動生成する自社開発ツールを使用して工数を大幅に削減



レガシーモダナイゼーション サービス

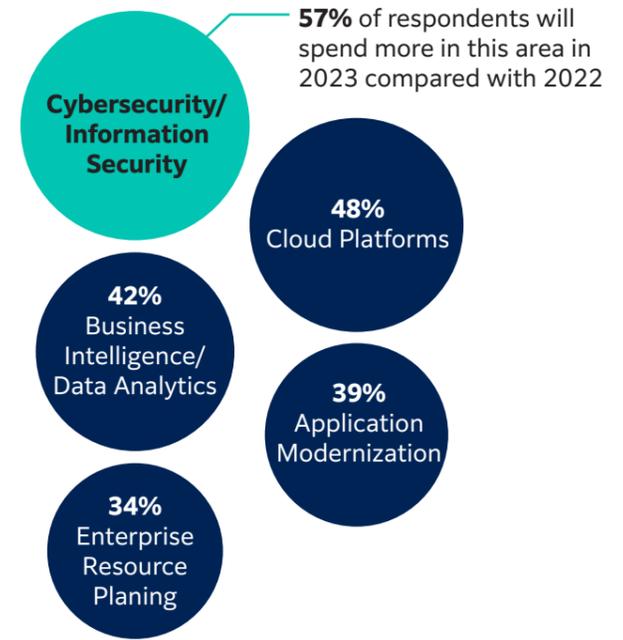
経済産業省が課題提起した「2025年の崖」が迫る中、日本企業の多くでレガシーシステムのマイグレーションが急務となっています。Gartner社の調査でも、全体の40%が2023年の投資分野としてモダナイゼーションを挙げています。(*)¹

お客様の課題

レガシーシステム問題によりビジネスへ大きなインパクトの恐れがあります。

- 障害発生時
対応コスト・時間の増加
- システム運用・保守
人材の不足
- 他システムとの
連携が困難
- セキュリティ面の
脆弱性
- 柔軟性不足による
ビジネス機会の損失

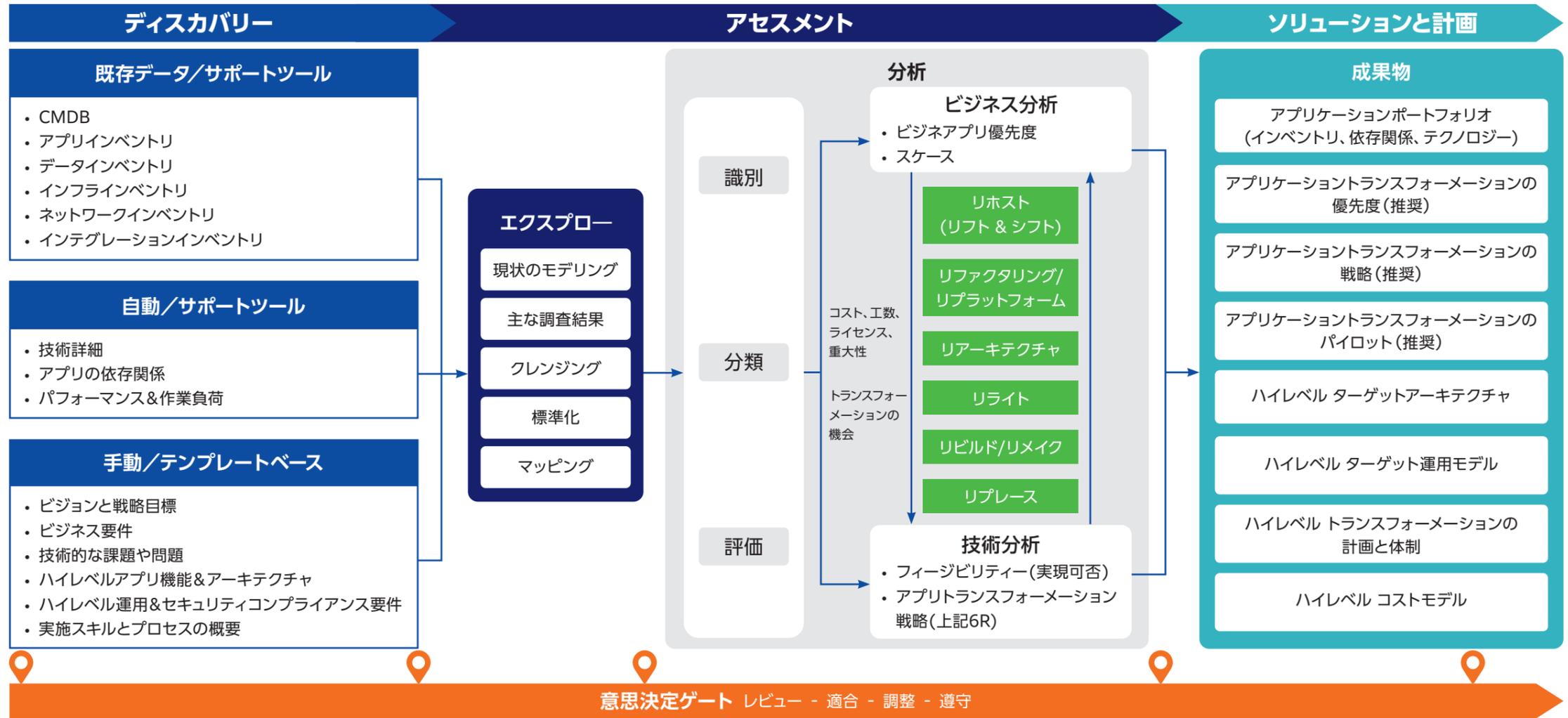
Where will investments go in 2023? (*)¹



(*)¹ Gartner®, Infographic: Top Priorities, Technologies and Challenges in Japan for 2023, Tsuneo Fujiwara et al., 6 December 2022
GARTNERは、Gartner Inc.または関連会社の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークであり、同社の許可に基づいて使用しています。All rights reserved.

サービスオフリング

現行システムを調査し、ビジネスと技術の観点から踏まえて分析し、クラウド化手法を選定します。そして実現のための計画を立案します。作業を推進しつつ、適宜ゲートを設定して状況をレビューし、意思決定事項をアジャストしながら進めることが肝要です。



クラウド化手法	アプローチ(詳細)
リホスト (リスト & シフト)	<ul style="list-style-type: none"> AWS/Azure/GCP等、各クラウド事業者が提供するアプリケーション移行サービスやツールを利用したリホストの実施 手動によるリホストの実施
リプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> データベースのリプラットフォームでは、移行するデータ量を踏まえて方法を選択し、データ移行を実施(データ量が少ない場合はゼロ・ダウンタイムでデータ移行を実施) AWSスキーマ変換ツールを利用し、データベース・エンジンの変更を実施 AWS DataSyncを利用し、新しいクラウド上のストレージサービスへのデータ転送を実施 AWSのAppStreamを利用し、新しいプラットフォーム上でアプリケーションを使用
リアーキテクチャ	<ul style="list-style-type: none"> リアーキテクチャでは、例えばAWSへマイグレーションする場合、ECS/Fargate/EKS/Glue等の新しいクラウド上の機能を利用
リライト/リビルド	<ul style="list-style-type: none"> メインフレーム上のCOBOLやアセンブラー等からオープン系COBOLやJavaへ、さまざまなコンバージョンツールを用いたリライトの実施 新システムの機能を新たに設計・開発し、リビルド/リメイクを実施(リビルドでは新要件の取り込みも実施) アプリケーションに必要な機能を備えたライブラリを構築 コンバージョンされたソースコードにて、DBアクセスメソッドをライブラリとして提供

メインフレームモダナイゼーションロードマップ

